

淀川水系流域委員会

平成26年度進捗点検結果説明資料 【人と川とのつながり(木津川)】

平成27年11月17日

近畿地方整備局

平成27年度 第1回淀川水系流域委員会 説明資料【人川(木津川)】

	点検項目	観 点	指 標	平成26年度 進捗	本文頁
1	日常からの川と人の つながりの構築	「住民参加推進プログラム」の策定状況	住民参加推進プログラムの検討内容	有り	P.11
2		住民・住民団体(NPO 等)との連携状況	河川愛護活動等の実施内容・回数	有り	P.14
3		河川レンジャーの進捗状況	河川レンジャー選任システム・在籍人数	有り	P.18
4			河川レンジャーと住民・住民団体との交流内容・回数	有り	P.24
5		子供達の関わりを促進する取組の実施状況	環境教育等の実施内容・回数	有り	P.28
6		情報公開の状況	情報公開の内容・件数	有り	P.32
7		情報発信方法の検証	HP、携帯サイトの内容・利用件数	有り	P.33
8			HP、携帯サイトにおける新着情報の内容・アップ数	有り	P.34
9		情報公開発信に関する職員の意識向上	研修等の内容・開催数	有り	P.35
10		意見聴取手法の開発に向けた取り組み	住民、住民団体との交流内容・回数	有り	P.36
11	憩い、安らげる河川を目指した河川事業の実施 状況	小径(散策路)、「歴史文化の薫る散歩道(仮称)」 の整備状況	小径(散策路)の整備内容・延長【重複】	進捗無し (利用と重複)	P.38
12			バリアフリー化の内容・実施箇所数【重複】	進捗無し (利用と重複)	P.40
			河川を安心して利用できる整備内容・箇所数【重複】	進捗無し (利用と重複)	P.40
13	三川合流部の整備状況	三川合流部交流拠点の整備内容【重複】	有り (利用と重複)	P.42	
14	良好な水辺まちづくりに資する河川事業の実施状況	高規格堤防の整備内容・延長【重複】	該当無し (治水と重複)	P.43	
15	洪水・災害時の人と川との つながりの構築	破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の 整備状況	まるごとまちごとハザードマップ、浸水実績及び想定表示看板 設置内容・設置数【重複】	有り (治水と重複)	P.47
16			自治体、水防団、マスメディア等との情報共有化のための情報 伝達体制の基盤整備内容・団体数【重複】	進捗無し (治水と重複)	P.49
17		関係機関との連携状況	協議会等の設置状況【重複】	有り (治水と重複)	P.53
18	上下流の連携の構築	水源地域ビジョンの推進状況	水源地域ビジョン策定とその後の活動内容・回数【重複】	有り (利用と重複)	P.59
19		上下流交流を促進するための活動状況	交流(水源地ネットワーク)実施内容・回数	有り	P.64

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】「住民参加推進プログラム」の策定状況

「指標」住民参加推進プログラムの検討内容

【住民参加推進プログラムに基づく活動事例】

【淀川河川事務所】

木津川において、淀川河川事務所、沿川自治体と河川レンジャーが連携・協働し、「環境学習会」を平成17年度から、「防災学習会」を平成21年度から実施している。平成26年度は、地域、小学校からの要請に応じて、環境学習では主に現地体験型の活動を実施。生物観察を通じ河川の生態系など環境について学んだ。防災学習では、京都府総合防災訓練に河川レンジャーとして参加機関の一つとして参加。過去、平成25年9月台風18号、平成26年8月台風11号出水時の木津川沿川被害写真の展示解説、軽微な内水氾濫時に家屋の浸水を防ぐ工夫としての「家庭にあるもので出来る簡易水防工法」の展示解説を実施し、水害発生時の心得と避難の重要性を学んだ。

平成26年度の実施回数は13回、参加者は延べ1366名。(木津川関連)



現地での環境学習(野鳥)



水害の講義(避難の重要性)



簡易水防の展示・解説

淀川河川レンジャーホームページ <http://www.river-ranger.jp/index.php>

【木津川上流河川事務所】

木津川上流河川事務所では、平成26年8月に河川レンジャーによる川下り体験を催し、ライフジャケット着用方法を学ぶとともに、着衣の状態ですぐ水中に入った場合の身動きの不自由さ・感覚を経験して貰った。併せて親子で簡易水生生物調査を実施し、河川水辺の環境保全について考えて貰うきっかけとなった。

平成26年度の実施回数は15回、参加者は延べ531名。



ライフジャケットおよびカヌーの説明の様子



水生生物調査の様子



川下りの様子

木津川上流河川レンジャー活動報告

<http://www.kkr.mlit.go.jp/kizujujo/outline/inhabitant/ranger/report.html>

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】「住民参加推進プログラム」の策定状況

「指標」住民参加推進プログラムの検討内容

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>平成26年度は、淀川河川事務所管内では、平成21年度に策定した淀川住民参加推進プログラムに基づき、河川レンジャーによる意見交換会を含むワークショップの開催や現地見学会を実施した。</p> <p>琵琶湖河川事務所管内では、平成22年度に策定した琵琶湖河川事務所住民参加推進プログラムに基づき、住民団体主催イベントで事務所事業(洗堰操作)の情報発信を実施した。 また、河川レンジャーを通じて住民参加によるモニタリングや環境学習を実施した。</p> <p>木津川上流河川事務所管内では、河川レンジャー活動を通じて、住民参加による水生生物調査や環境学習を実施した。</p> <p>猪名川河川事務所管内では、河川レンジャー活動を通じて、水質一斉調査や猪名川水環境パネル展、意見交換会等を実施した。</p>	<p>各事務所管内で住民参加推進プログラムに基づき、河川レンジャー活動を起点とし、人と川とをつなげる活動を推進している。</p> <p>引き続き、住民と行政の相互理解を深め、効率的な河川管理を進める対策として推進していく。</p>

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】住民・住民団体(NPO等)との連携状況

「指標」河川愛護活動等の実施内容・回数

【河川愛護活動等の実施事例】

【淀川河川事務所】

淀川河川事務所管内の木津川では、平成26年度は20回の河川愛護活動等を実施した。「木津川クリーンアップ」では河川レンジャーが中心となり、平成19年度より実施しており、平成26年度で8回目を開催した。回数を重ねるごとに参加団体が増加しており、平成26年度は132名の参加者があった。合計約710キロものゴミを回収した。

実施年	平成19年 6月	平成20年 6月	平成21年 6月	平成22年 6月	平成23年 6月	平成24年 6月	平成25年 6月	平成26年 6月
参加者数	51人	5人	20人	39人	39人	30人	57人	132人
ゴミ回収量	-	約150kg	-	-	約160kg	約110kg	約290kg	約710kg

※「-」:ゴミ回収量が微量であったため、調査していない。

木津川クリーンアップの参加者数とゴミ処分量



木津川流れ橋周辺



木津川左岸堤防

淀川河川レンジャーホームページ <http://www.river-ranger.jp/index.php>

【木津川上流河川事務所】

木津川上流河川事務所管内では、平成26年度は1回の河川愛護活動等を実施した。河川協力団体や国土交通省、三重県などで作る実行委員会が主催し、平成26年6月1日を中心に名張市内全域において名張クリーン大作戦2014を実施した。名張市民4,214人が参加し、合計5,117キロものゴミを回収した。

実施年	平成19年 6月	平成20年 6月	平成21年 5月	平成22年 5月	平成23年 6月	平成24年 6月	平成25年 6月	平成26年 6月
参加者数	1,600人	6,043人	6,263人	3,138人	3,078人	4,202人	4,712人	4,214人
ゴミ回収量	約6,310kg	約13,070kg	約10,600kg	約5,210kg	約4,390kg	約6,220kg	約5,690kg	約5,117kg

名張クリーン大作戦の参加者数とゴミ処分量



名張川新町橋上流



名張川宇陀川合流点付近



名張川宇陀川合流点付近

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】住民・住民団体(NPO等)との連携状況

「指標」河川愛護活動等の実施内容・回数

【河川愛護活動等の実施事例】

平成26年度は木津川ダム群において、7回の河川愛護活動等を実施した。

【布目ダム】

布目ダム周辺クリーンキャンペーンは、布目ダム周辺地域開発協会、東山地区振興会、東山公民館、山添村主催により春と秋に実施されており、布目ダム管理職員も毎回参加し地域の方々と一緒にダム周辺の環境保全に努めている。

清掃には布目ダム管理所職員5名が参加し、地元振興会や山添村等と連携して、全体で合計140キロものゴミを回収した。



ダム湖周辺の清掃状況

【青蓮寺ダム】

青蓮寺ダムでは、名張クリーン大作戦2014の一環として水資源機構職員29名が参加し、NPO法人や名張市民と連携してダム周辺の清掃を行い、快適な環境作りに努めた。名張クリーン大作戦2014全体で5,117キロものゴミを回収した。



ダム湖周辺の清掃状況

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】住民・住民団体(NPO等)との連携状況

「指標」河川愛護活動等の実施内容・回数

進捗状況	点検結果																		
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>平成26年度は、流域全体で277回の河川愛護活動等を実施した。</p> <div data-bbox="174 438 857 927"> <p style="text-align: center;">河川愛護活動等の実施回数</p> <table border="1"> <caption>河川愛護活動等の実施回数 (回)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施回数(回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>85</td></tr> <tr><td>H20</td><td>105</td></tr> <tr><td>H21</td><td>115</td></tr> <tr><td>H22</td><td>120</td></tr> <tr><td>H23</td><td>150</td></tr> <tr><td>H24</td><td>145</td></tr> <tr><td>H25</td><td>155</td></tr> <tr><td>H26</td><td>277</td></tr> </tbody> </table> </div> <p>※平成26年度より河川協力団体制度が始まったことにより、幅広く河川愛護活動等の実施内容が把握可能となったことにより、平成26年度は実施回数が増加した。</p> <p>平成26年度の代表事例を以下に示す。</p> <p>淀川河川事務所管内では、NPO法人、河川協力団体、企業、行政等と連携して、清掃活動(木津川クリーンアップ)、流入支川を含む水質調査活動(木津川一斉水ウォッチング)、木津川本川での体験学習会(木津川魚とり、野鳥観察等)、防災啓発活動(京都府総合防災訓練への参加)、沿川で活動する住民の交流会(木津川沿川活動団体交流会等)等を実施した。</p> <p>琵琶湖河川事務所管内では、地域住民、NPO法人、河川協力団体、漁業協同組合等の住民団体や天ヶ瀬ダム湖を管理する淀川ダム統合管理事務所と連携して瀬田川クリーン作戦を実施した。</p> <p>木津川上流河川事務所管内では、河川協力団体や三重県及び名張市等と連携し、名張クリーン大作戦2014を実施した。</p>	年度	実施回数(回)	H19	85	H20	105	H21	115	H22	120	H23	150	H24	145	H25	155	H26	277	<p>住民・住民団体(NPO等)との連携としては、河川協力団体の取り組みが始まったこともあり、河川愛護活動等の実施回数が増加傾向にあり、河川愛護活動等を通じて情報共有が積極的に行われている。</p> <p>今後、さらに連携を強化する取り組みを行っていくとともに、河川に係わる人材育成の支援や環境教育を推進する。</p>
年度	実施回数(回)																		
H19	85																		
H20	105																		
H21	115																		
H22	120																		
H23	150																		
H24	145																		
H25	155																		
H26	277																		

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】住民・住民団体(NPO等)との連携状況

「指標」河川愛護活動等の実施内容・回数

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度 of 取組)</p> <p>猪名川河川事務所管内では、地域住民、NPO法人、河川協力団体、漁業協同組合等の住民団体と連携して、猪名川クリーン作戦を実施した。</p> <p>淀川ダム統合管理事務所管内では、宇治観光ボランティアガイドクラブと連携して、見学ハイク3回、NPO法人と連携して、水生生物調査、自然観察会を実施した。</p> <p>日吉ダムでは、水源地域ビジョン連絡会の連携活動の取り組みとして、集中取組期間(9月～11月)を設けて、地元自治体や漁業協同組合等と連携してダム周辺地域の統一清掃を実施したほか、住民や住民団体等と連携して桂川クリーン大作戦を実施した。</p> <p>木津川ダム総合管理所管内の青蓮寺ダム・比奈知ダムではNPO法人、三重県及び名張市等と連携し、名張クリーン大作戦2014を実施した。また、布目ダムでは布目ダム周辺地域開発協会、東山地区振興会及び山添村等と連携し、春と秋に布目ダム周辺クリーンキャンペーンを実施した。</p> <p>一庫ダムでは川西市等と連携して、川西一庫ダム周遊マラソン大会の前に「一庫ダム周遊道路クリーンアップ」を実施した。</p>	

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】河川レンジャーの進捗状況

「指標」河川レンジャー選任システム・在籍人数

【淀川水系河川レンジャー意見交換会】

平成27年1月31日に淀川水系河川レンジャー意見交換会を実施し、淀川水系各流域の河川レンジャー及び各事務所担当者が参加し、河川レンジャーが考える課題、各事務所が考える課題を共有し、その対応等について意見交換を行った。



淀川水系河川レンジャー意見交換会

【グループ河川レンジャー・ジュニア河川レンジャー】

淀川河川事務所管内では、河川レンジャーの役割を担い、河川レンジャーの更なる充実を図るために、グループ河川レンジャーの取組を実施しており、現在3団体(計16名)のグループ河川レンジャーが活動を実施している。

また、「河川を通した人づくり・地域ネットワークづくり」を活動のテーマとして地域の子供達を対象にジュニア河川レンジャーとして、未来の河川レンジャーを育てる取組を実施しており、現在2団体のジュニア河川レンジャーが活動を実施している。



グループ河川レンジャーによる「木津川一日探検！」の取組

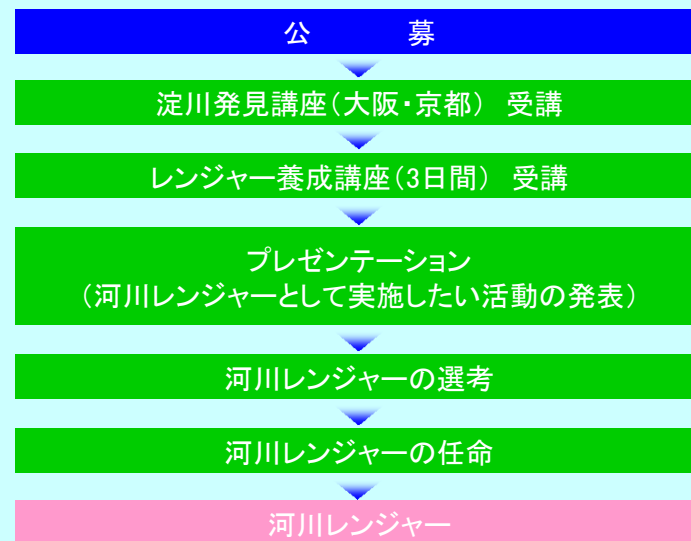
【河川レンジャー選任システムの紹介】

【淀川河川事務所】

淀川河川事務所管内の木津川では、平成26年度は4名の河川レンジャーが在籍している。なお、淀川河川事務所の管轄範囲を中心として活動する河川レンジャーになるには、淀川流域に在住または通勤・通学する満18歳以上74歳以下の男女を対象に実施される淀川発見講座およびレンジャー養成講座を受講し、修了した上で、プレゼンテーション審査を受けることが必要となっている。

プレゼンテーション審査において、代表者会議から推薦を受けた者が、各出張所管内運営会議より河川レンジャーに任命されることとなっている。

なお、平成27年度より、活動経験の少ない人材等を河川レンジャーとして養成していく「淀川スクール」の取組を試行しています。「淀川スクール」では、①個人面談、②活動の企画運営実習、③活動体験等のプログラムに参加いただき、予定するプログラムを修了した方は、修了後3年間は、再度のレンジャー養成講座なしにプレゼンテーション審査を受けることを可能としています。



淀川河川レンジャーホームページ <http://www.river-ranger.jp/become/become.html>

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】河川レンジャーの進捗状況

「指標」河川レンジャー選任システム・在籍人数

【河川レンジャー選任システムの紹介】

【木津川上流河川事務所】

木津川上流河川事務所では、平成26年度は4名の河川レンジャーが在籍している。木津川上流域を中心に活動して頂ける方を公募しており、予備審査と河川レンジャー推薦委員会での審査により最終的に被推薦者に選出された方が河川レンジャーに任命されることになっている。

希望される方は、国土交通省木津川上流河川事務所ホームページの「応募書」よりご応募下さい。(詳しくは裏面へ)
<http://www.kkr.mlit.go.jp/kizujyo/>

木津川上流管内河川レンジャー事務局
 事務担当 一般社団法人近畿建設協会
 〒630-8114 奈良市芝辻町 3-9-27 ローダック 21 奈良ビル
 TEL: 0742-36-8760 (平日 AM9:00 ~ PM5:00) FAX: 0742-36-8782

国土交通省 木津川上流河川事務所 管理課
 TEL: 0595-63-1611 (代表)
 ※土日祝日の電話・窓口対応は行っていません。ご了承下さい。

主催：国土交通省 木津川上流河川事務所

木津川上流管内河川レンジャー 募集要領

応募資格
 河川レンジャーとして木津川上流域で活動していただける満18歳以上の方(H26.4.1現在)で、
 ①地域固有の情報や知識に興味や関心がある方
 ②有能な河川レンジャーになれるよう日々熱意を持ち、自己研鑽や研修を惜しまない方
 ③公共施設の不正使用等の法令に違反する行為を行っていない方
 ④心身ともに健全で河川レンジャーとして活動できる方
 ⑤木津川上流管内河川レンジャー運営要領(案)を遵守できる方

応募方法
 国土交通省木津川上流河川事務所ホームページに掲載しております「木津川上流管内河川レンジャー応募書」に必要事項をご記入の上、事務局まで郵送またはFAXにて応募して下さい。(http://www.kkr.mlit.go.jp/kizujyo/)

応募締切日 平成26年10月31日(金)まで
募集人数 若干名

活動内容
 河川レンジャーは、住民の方々から河川に関心を持つような活動を行うことを役割としており、主な活動内容は以下のとおりです。
 ●主な活動内容(事例)
 『水防・防災学習』『野鳥観察会』『歴史・郷土・文化学習』『川下り・カヌー体験』『ダム見学会』『水生生物調査』『源流探検』『特定外来生物調査』『情報交換会』等
 ●活動期間 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで
 ●活動範囲 木津川上流域
 ※活動の実施にあたっては、ご自身で活動内容を計画していただき、内容審査による承認を受けて実施していただきます。

支援内容
 実施した活動に対して、日当、交通費、備品購入費等、活動経費の一部を支援します。

選考方法
 後日開催される推薦委員会において、河川レンジャーとして行いたい活動を発表(プレゼンテーション)していただき、委員会による審査により選考します。
 ※プレゼンテーションは平成26年12月上旬に開催を予定しております。
 ※開催日程等の詳細は、応募された方に後日ご案内いたします。
 ※選考結果は、本人にお知らせします。(平成26年12月下旬予定)

その他
 推薦委員会による選考の結果、河川レンジャーに任命された方は、以下の「河川レンジャー養成講座」を受講していただきます。
 【平成26年度 河川レンジャー養成講座】
 【開催日時】平成27年2月中旬開催予定(半日程度)
 【開催場所】伊賀市小田町242上野遊水地集中管理センター(国土交通省 木津川上流河川事務所 伊賀上野出張所構内)
 ※開催日程等の詳細は、河川レンジャーに任命された方に後日ご案内いたします。

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】河川レンジャーの進捗状況

「指標」河川レンジャー選任システム・在籍人数

進捗状況	点検結果																		
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>河川レンジャーの充実を示す指標として、平成19年度～平成26年度における河川レンジャーの在籍人数を以下に示す。</p> <p>平成26年度の河川レンジャーの在籍人数は、流域全体で37人となっている。</p> <div data-bbox="546 552 1267 1107" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>河川レンジャーの在籍人数</caption> <p>平成26年3月31日現在</p> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>在籍人数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>26</td></tr> <tr><td>H20</td><td>34</td></tr> <tr><td>H21</td><td>40</td></tr> <tr><td>H22</td><td>41</td></tr> <tr><td>H23</td><td>36</td></tr> <tr><td>H24</td><td>41</td></tr> <tr><td>H25</td><td>40</td></tr> <tr><td>H26</td><td>37</td></tr> </tbody> </table> </div>	年度	在籍人数(人)	H19	26	H20	34	H21	40	H22	41	H23	36	H24	41	H25	40	H26	37	<p>河川レンジャー在籍人数は、再任・退任等があった平成25年度の40名に対し平成26年度は37人となっている。引き続き、河川レンジャーの規模については、対応分野や活動範囲を踏まえ、今後検討が必要である。河川レンジャーの選任については代表者会議等第三者機関による選任を行い、公平な審査のもと実施しており、選任システムについては定着しつつある。</p>
年度	在籍人数(人)																		
H19	26																		
H20	34																		
H21	40																		
H22	41																		
H23	36																		
H24	41																		
H25	40																		
H26	37																		

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】河川レンジャーの進捗状況

「指標」河川レンジャー選任システム・在籍人数

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組) 以下具体的な運営状況を示す。</p> <p>【河川レンジャー代表者会議・運営会議】 (淀川河川事務所) 学識経験者や地元見識者、自治体、河川管理者等で構成された中立の立場の「代表者会議」では河川レンジャーの仕組みづくり及び基準づくり、河川レンジャーの選任審査、「運営会議」では、河川レンジャーの活動計画、活動報告、及び今後の展開計画(案)の審議並びに河川レンジャーの任命・再任などを行っている。</p> <p>平成26年度は、平成25年度に正式に位置づけ、任命した、大学生等若い世代が若干名でのグループ単位で活動を行う「グループ河川レンジャー」が、体験から学ぶ河川環境啓発活動、河川利用を考える清掃活動、地域防災について考える防災啓発活動を実施している。河川レンジャーの選任審査では、講座修了者からの希望者に対して「河川レンジャーとして実施したい活動」のプレゼンテーション審査を行い、新たに3名の推薦者を決定。河川レンジャー運営会議では、推薦された3名の河川レンジャーの任命と、試行期間を経た4名の再任の妥当性の確認、1期目の任期を満了した6名の再任の審議を行い任命。また平成27年度の河川レンジャー活動計画、展開計画の承認を行った。</p> <p>平成26年度は、27名在籍している。</p> <p>【河川レンジャー制度運営委員会】 (琵琶湖河川事務所) 河川レンジャーの育成、運営、支援についての具体的な議論・検討を進めていくために設置された委員会(学識委員2名、公募により任命された住民委員3名、河川管理者2名)を4回開催した。この委員会においては、河川レンジャーの中立性を確保するために、任命も行っている。</p> <p>平成26年度は、河川レンジャー4名の再任の妥当性の確認が行われ、再任命された。平成26年度は4名在籍している。</p>	

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】河川レンジャーの進捗状況

「指標」河川レンジャー選任システム・在籍人数

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>【木津川上流管内河川レンジャー会議】 (木津川上流河川事務所) 河川レンジャー、自治体等で構成される「河川レンジャー会議」では、年間活動計画の決定や活動報告を行っている。</p> <p>また、新規河川レンジャーの任命・河川レンジャーの再任については、有識者、自治体等で構成する「河川レンジャー推薦委員会」で審査され、平成26年度は河川レンジャー3名の再任に加えて新規河川レンジャー応募者1名について妥当性を確認し、4名が任命された。平成26年度は4名在籍している。</p> <p>【猪名川河川レンジャー運営検討委員会】 (猪名川河川事務所) 学識経験者や自治体、河川管理者等で構成され、河川レンジャー、レンジャー協力員及び事務局からの報告及び提案を受けた事項について討議を行い、河川レンジャー及びレンジャー協力員のより良い活動に向けて、支援のための方策、河川レンジャー等のあり方、役割、今後の制度のあり方について協議や意見交換を行っている。</p> <p>猪名川の河川レンジャー活動は流域団体との関わりが強く、流域団体の人しか務まらない特異性を踏まえ、一般公募ではなく、多くの流域団体が参加する流域意見交換会等(主催:河川レンジャー)のメンバーから募集を行い、2名の方が集まっている。また、平成23年度以降は、河川レンジャーの継続・発展に向け、河川レンジャーを様々な形でサポートする「レンジャー協力員」という形態で河川レンジャーと同様に募集を行い、現在3名の方が集まっている。</p> <p>平成26年度の運営検討委員会は平成27年3月に1回開催し、今後の活動内容等について意見交換が行われた。平成26年度は、2名在籍している。</p> <p>【淀川水系河川レンジャー意見交換会】 淀川水系各流域の河川レンジャー及び各事務所担当者が参加し、河川レンジャーが考える課題、各事務所が考える課題を共有し、その対応等について意見交換する場を平成27年1月に開催した。意見交換会の中で、「河川レンジャー代表者会議、運営会議等とは別に、事務所又は出張所と河川レンジャーの情報共有、接点を考える必要があること」、「活動の評価として、課題取り組み時の目的や実施に対する達成度、地域との連携、広がりといった定性的な評価項目を整理する必要があること」といった議論がなされ、引き続き、このような場を設けていくこととなった。</p>	

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】河川レンジャーの進捗状況

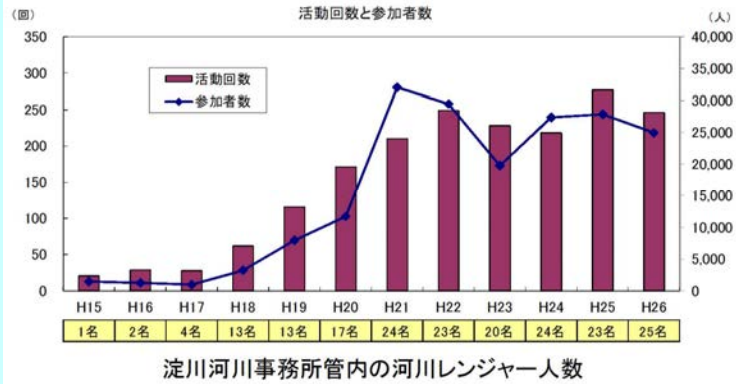
「指標」河川レンジャーと住民・住民団体との交流内容・回数

【河川レンジャーの活動事例】

【淀川河川事務所】

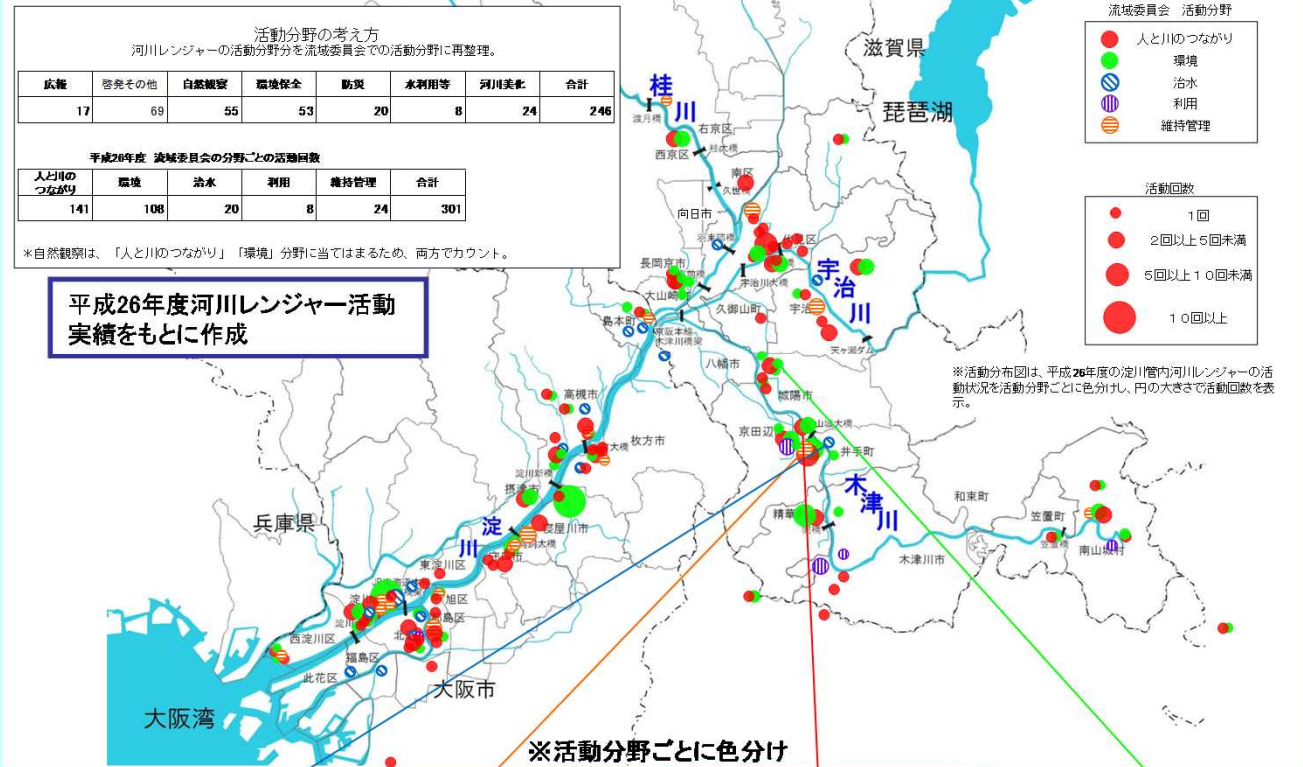
淀川河川事務所管内の木津川では、平成26年度は66回、約4千人の住民・住民団体と交流を実施した。

なお、淀川河川事務所管内では各出張所管内毎に河川レンジャーを配置し、沿川全域で活動を行っており、平成15年度から平成26年度にかけてのべ約19万人の人々に淀川の魅力等を伝えてきた。



淀川河川レンジャーホームページ
<http://www.river-ranger.jp/index.php>

平成26年度 淀川管内河川レンジャー活動分布図



平成26年度河川レンジャー活動実績をもとに作成

※活動分野ごとに色分け

京都府総合防災訓練参加(木津川)



京都府主催の防災訓練に参加機関として参加。水害に関する展示解説を行い、水害に対する備え、災害に対する危機意識、避難の重要性を啓発している。

■参加人数:200名(1回開催)

木津川クリーンアップ(木津川)



木津川の笠置橋下流から三川合流付近までの区域で、住民や団体に参加を呼びかけ、身近な川を美しくする一斉清掃活動を行っている。

■参加人数:146名(1回開催)

木津川魚とり(木津川)



木津川のすばらしい自然を知ってもらうため、木津川魚とりを行い、身近な川にも様々な生き物が暮らしていることを知ってもらい、その環境を守っていくことの大切さを伝えている。

■参加人数:402名(2回開催)

水質調査出前授業(木津川)



小学校や自治体、地域が開催する学習会などに出席し、児童と水質調査体験を実施した。汚染の実態を学び、汚染原因を共に考えることで、自然の残る河川を取り戻すにはどのようなことが必要かを共に考えていく。

■参加人数:143名(3回開催)

日常からの川と人のつながりの構築

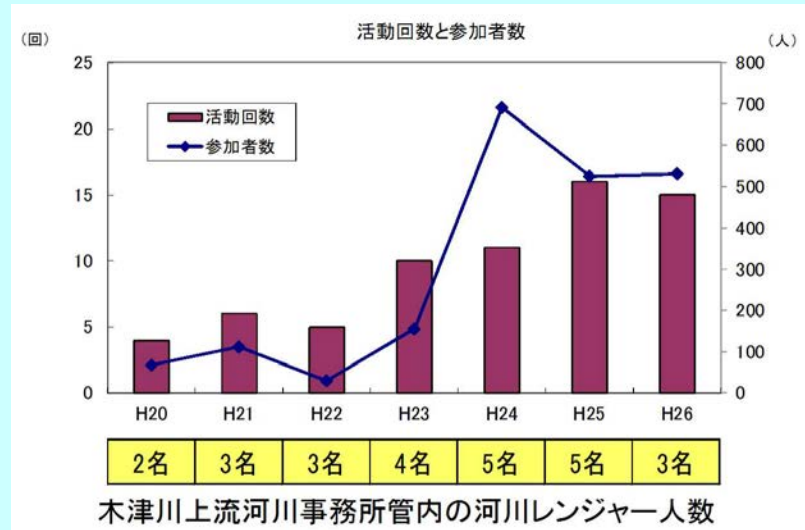
【観点】河川レンジャーの進捗状況

「指標」河川レンジャーと住民・住民団体との交流内容・回数

【河川レンジャーの活動事例】

【木津川上流河川事務所】

木津川上流河川事務所管内では、平成26年度は15回、約5百人の住民・住民団体と交流を実施した。河川レンジャーが沿川全域で活動を行っており、平成20年度から平成26年度にかけてのべ約2千人の人々に木津川の魅力等を伝えてきた。



- 木津川上流管内河川レンジャー
平成26年度の主な活動
- 名張川ホタル再生(鑑賞会)
 - 名張川ホタル再生(幼虫放流体験)
 - 名張川自然観察ウォーキング
 - 学んで遊ぼう水のはたらき
～ペット・トルで水の力について実験してみよう
 - 名張川水生生物調査&食文化学習
 - 川下り・カヌー体験
 - 木津川源流探検&シャワークライミング体験
 - 名張川源流探検登山

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】河川レンジャーの進捗状況

「指標」河川レンジャーと住民・住民団体との交流内容・回数

進捗状況	点検結果																		
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>平成26年度は、河川レンジャーと住民・住民団体との交流活動を流域全体で348回実施した。</p> <div data-bbox="609 429 1182 855" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>河川レンジャーと住民等との交流回数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>交流回数(回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>220</td></tr> <tr><td>H20</td><td>500</td></tr> <tr><td>H21</td><td>510</td></tr> <tr><td>H22</td><td>440</td></tr> <tr><td>H23</td><td>340</td></tr> <tr><td>H24</td><td>400</td></tr> <tr><td>H25</td><td>500</td></tr> <tr><td>H26</td><td>348</td></tr> </tbody> </table> </div> <p>平成26年度の代表事例を以下に示す。</p> <p>淀川河川事務所管内では、河川レンジャーと協働で、木津川クリーンアップ、木津川親子で遊ぼう・学ぼう・魚とり、水質調査出前授業、小学校出前授業、京都府総合防災訓練参加、木津川沿川活動団体交流会等、沿川全域でさまざまな分野の活動を行った。</p> <p>琵琶湖河川事務所管内では、河川レンジャーと協働して「野洲川ミニフォーラム」を開催した。学校関係者、中学生、住民、自治体が集まり「野洲川における子どもたちの活動」について情報共有を行った。</p> <p>木津川上流河川事務所管内では、河川レンジャーと協働してホテル鑑賞会での自然環境再生に向けた取り組み紹介・簡易水生生物調査等を通じ、住民に対して河川環境の保全意識や水辺での活動における諸知識の向上に努めた。</p> <p>猪名川河川事務所管内では、河川レンジャーと協働して、平成17年度から平成26年度にかけてのべ約3.5万人の人々に猪名川の魅力等を伝えてきた。 平成26年度は、水辺まつり、出前講座等を行った。</p>	年度	交流回数(回)	H19	220	H20	500	H21	510	H22	440	H23	340	H24	400	H25	500	H26	348	<p>河川レンジャーは、防災意識啓発、自然観察会、河川関連施設の見学会等、多種多様な活動を行っており、河川レンジャーと住民・住民団体との交流回数は平成25年度は505回であったが、平成26年度は348回であった。河川レンジャーの在籍人数に比例して活動回数も変動している。</p> <p>今後、さらに交流の機会を増やす取り組みを行っていくため、河川レンジャーの在籍人数を検討していくとともに、地域住民と河川管理者とが連携しながら河川整備を進めていく上で、河川レンジャーが住民と河川管理者の橋渡し役となるよう活動を支援する。</p>
年度	交流回数(回)																		
H19	220																		
H20	500																		
H21	510																		
H22	440																		
H23	340																		
H24	400																		
H25	500																		
H26	348																		

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】子ども達の関わりを促進する取り組みの実施状況

「指標」環境教育等の実施内容・回数

【淀川河川事務所】

淀川河川事務所管内の木津川では、平成26年度は5回の環境教育等を実施した。流域の小学校、中学校に対し、河川レンジャーによる水生生物調査、水質調査の指導を行い、解説を通じて自然環境の現状を知り、河川への関心を高め、河川の自然環境保全の重要性の理解と今後の配慮を学ぶ機会を設けた。

古川小学校での出前講座参加者からは、「川のゴミをとったり、川をきれいにして、生き物が住みやすい川にしたい。」「自分たちでも努力すれば、川をきれいに出来る」等と言った感想もあり、川への関心を高めることが出来た。



小学校での出前講座の様子(古川小学校)

平成26年度 淀川河川レンジャー活動経過報告 <http://www.river-ranger.jp/report/report.php>

【室生ダム】

木津川ダム群では、平成26年度は38回の環境教育等を実施した。

室生ダムでは、小学生等の施設見学を実施した。平成26年度は、7校の小学校、1校の中学校から合計306人の施設見学を受け入れており、ダムの役割等について理解を深めてもらった。



小学生の施設見学(室生ダム)

【木津川上流河川事務所】

木津川上流河川事務所管内では、平成26年度は13回の環境教育等を実施した。

平成14年度より各小中学校などと連携し、「出前講座」などを通じて、川を活用した環境学習や自然体験活動を行い、疑問や興味のある点について、国土交通省職員の持つ知見や河川行政に関する最新情報を交えて、わかりやすく作成した資料を用いて、出前講座を行っている。

平成26年度は三重県伊賀市立河合小学校、奈良県天理市立福住小学校等で出前講座を実施した。

河合小学校では、「講話(河川環境について)」、「パックテスト(簡易水質試験)」を教室で行った後、河合川に移動し、「水生生物調査」を実施した。

福住小学校では、「講話(河川環境について)」、「パックテスト(簡易水質試験)」を教室で実施した。



水生生物調査の様子



水質パックテストの様子

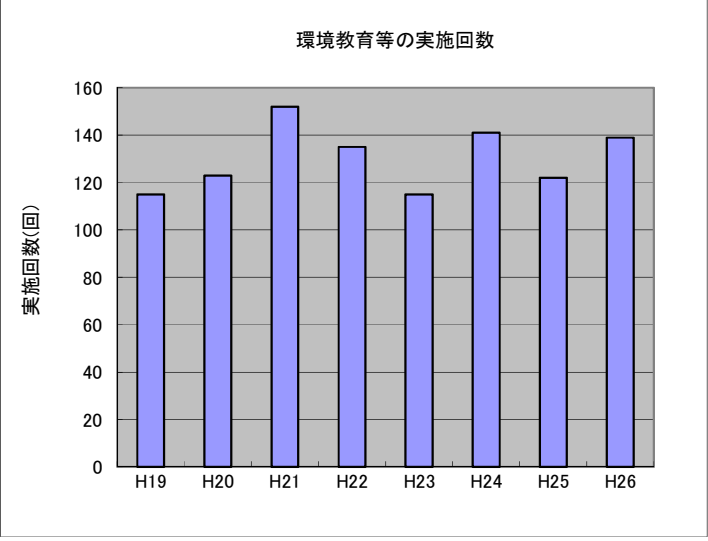


小学生への出前講座の様子

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】子ども達の関わりを促進する取り組みの実施状況

「指標」環境教育等の実施内容・回数

進捗状況	点検結果																		
<p>(平成26年度の実施回数)</p> <p>平成26年度は、流域全体で139回の環境教育等を実施した。</p>  <table border="1" data-bbox="235 438 940 981"> <caption>環境教育等の実施回数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施回数(回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>115</td></tr> <tr><td>H20</td><td>125</td></tr> <tr><td>H21</td><td>150</td></tr> <tr><td>H22</td><td>135</td></tr> <tr><td>H23</td><td>115</td></tr> <tr><td>H24</td><td>140</td></tr> <tr><td>H25</td><td>122</td></tr> <tr><td>H26</td><td>139</td></tr> </tbody> </table> <p>平成26年度の代表事例を以下に示す。</p> <p>淀川河川事務所管内では、流域の小学校等に対し、淀川の自然、利水、利用、治水についての出前講座を実施した。</p> <p>また、河川レンジャー活動においても、流域の小学校、中学校に対し水生生物調査、水質調査等の環境学習出前授業を実施し、自然環境の現状を知り、河川への関心を高め、河川の自然環境保全の重要性の理解と今後の配慮を学ぶ機会とした。</p> <p>琵琶湖河川事務所管内では、水生生物調査を実施し、生物調査の他、水質パックテストや透明度調査などの体験を通じて、野洲川・瀬田川の環境について学習機会を提供。</p> <p>また、河川レンジャーを通じて住民参加によるモニタリングや環境学習を実施した。</p>	年度	実施回数(回)	H19	115	H20	125	H21	150	H22	135	H23	115	H24	140	H25	122	H26	139	<p>自然観察会や出前講座、レンジャー活動、小学校、中学校の総合学習への協力を継続的に実施し、実施回数は平成25年度に122回、平成26年度は139回となっている。なお、日頃川へ近づく機会が減少している子ども達に対し、川への関心を持ってもらう良いきっかけになっていると考えられる。</p> <p>今後も継続して子ども達との関わりを持つ取り組みを実施し、次世代を担う子ども達が、川に対する関心を高めることができる工夫を行うことにより、持続的な川と人とのつながりや地域とのつながりの構築につなげていく。</p>
年度	実施回数(回)																		
H19	115																		
H20	125																		
H21	150																		
H22	135																		
H23	115																		
H24	140																		
H25	122																		
H26	139																		

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】子ども達の関わりを促進する取り組みの実施状況

「指標」環境教育等の実施内容・回数

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>木津川上流事務所管内では、流域の小学校に対し出前講座を実施した。河川環境についての講話の後に、伊賀市立河合小学校では河合川での「パックテスト(簡易水質試験)」、「水生生物調査」を、福住小学校では布目川での「パックテスト(簡易水質試験)」を行い、河川環境について啓発活動を実施した。</p> <p>また、河川レンジャー活動において、流域の子ども達を対象に水生生物調査、ホタルの生態学習、水質調査等自然環境の保全をより身近に考えてもらうきっかけを提供した。</p> <p>猪名川河川事務所管内では、流域内の小学生を対象とした水生生物調査及び水質調査を実施し、猪名川流域の自然環境、水質について説明を行い、自然環境について啓発活動を実施した。</p> <p>淀川ダム統合管理事務所管内では、平成26年度は水生生物調査、自然観察会、職場体験学習を実施した。</p> <p>木津川ダム総合管理所管内では、室生ダム、布目ダム及び比奈知ダムの施設見学会を行い、来訪した多くの小学生(計2,131人)や中学生(計113人)にダムの役割等について理解を深めてもらう取り組みを実施した。</p> <p>一庫ダムでは、小学生や高校生(計268人)の社会科見学を受け入れ、一庫ダムの治水・利水・環境の概要を説明し、堤体内を見学してもらうことで、ダムの役割等について理解を深めてもらう取り組みを実施した。</p>	

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】情報公開の状況

「指標」情報公開の内容・件数

進捗状況	点検結果																																				
<p>(平成26年度の実績)</p> <p>平成26年度の淀川水系に関する行政文書の開示請求文書数は333文書あり、その内、資料不存在的の1文書を除く、332文書について開示を行った。その内容としては、工事や業務の積算資料等の開示請求が主であった。なお、上記件数は淀川水系の河川に関する全ての内容を計上している。</p> <div data-bbox="264 619 907 1093" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>情報開示状況 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>開示決定文書数</th> <th>資料不存在的数</th> <th>不開示文書数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>60</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>30</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>35</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>420</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>390</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>430</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>460</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>332</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>※ 資料不存在的数とは、元々存在しない文書資料について開示請求された文書数</p>	年度	開示決定文書数	資料不存在的数	不開示文書数	H19	60	0	0	H20	30	0	0	H21	35	0	0	H22	420	0	0	H23	390	0	0	H24	430	0	0	H25	460	0	0	H26	332	1	0	<p>平成26年度は開示請求に対し資料不存在的の1文書を除く332文書の開示を行っており、適切に対応している。</p> <p>今後も、制度に基づき適切に対応していく。</p>
年度	開示決定文書数	資料不存在的数	不開示文書数																																		
H19	60	0	0																																		
H20	30	0	0																																		
H21	35	0	0																																		
H22	420	0	0																																		
H23	390	0	0																																		
H24	430	0	0																																		
H25	460	0	0																																		
H26	332	1	0																																		

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】情報発信方法の検証

「指標」HP、携帯サイトの内容・利用件数

進捗状況	点検結果																		
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>平成26年度のホームページや携帯サイトへのアクセス数(利用件数)は約967万件あった。その内容としては、出水期間中はライブカメラや水位・雨量情報、出水期間外はライブカメラや入札・契約情報のアクセス数が多かった。</p> <div data-bbox="219 568 949 1027" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>HP、携帯サイトの利用件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用件数(件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>約3,500,000</td></tr> <tr><td>H20</td><td>約3,200,000</td></tr> <tr><td>H21</td><td>約3,800,000</td></tr> <tr><td>H22</td><td>約5,800,000</td></tr> <tr><td>H23</td><td>約5,500,000</td></tr> <tr><td>H24</td><td>約6,500,000</td></tr> <tr><td>H25</td><td>約9,200,000</td></tr> <tr><td>H26</td><td>約9,700,000</td></tr> </tbody> </table> </div>	年度	利用件数(件)	H19	約3,500,000	H20	約3,200,000	H21	約3,800,000	H22	約5,800,000	H23	約5,500,000	H24	約6,500,000	H25	約9,200,000	H26	約9,700,000	<p>ホームページや携帯サイトの利用件数については、平成22年度から500万件を越え、平成26年度も約967万件のアクセスがあり、多くの方々に利用いただいている。</p>
年度	利用件数(件)																		
H19	約3,500,000																		
H20	約3,200,000																		
H21	約3,800,000																		
H22	約5,800,000																		
H23	約5,500,000																		
H24	約6,500,000																		
H25	約9,200,000																		
H26	約9,700,000																		

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】情報発信方法の検証

「指標」HP、携帯サイトにおける新着情報の内容・アップ数

進捗状況	点検結果																		
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>平成26年度は、ホームページや携帯サイトの新着情報へのアップを561件行った。木津川では、台風11号出水概要、活動やイベントの紹介、刈草ロール・伐採竹無料配付等のお知らせを掲載した。</p> <div data-bbox="293 539 875 1059" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>新着情報のアップ数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>アップ数(件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>360</td></tr> <tr><td>H20</td><td>400</td></tr> <tr><td>H21</td><td>340</td></tr> <tr><td>H22</td><td>340</td></tr> <tr><td>H23</td><td>360</td></tr> <tr><td>H24</td><td>320</td></tr> <tr><td>H25</td><td>530</td></tr> <tr><td>H26</td><td>561</td></tr> </tbody> </table> </div>	年度	アップ数(件)	H19	360	H20	400	H21	340	H22	340	H23	360	H24	320	H25	530	H26	561	<p>新着情報については平成26年度は561件と平成25年度とほぼ同様のアップ数である。</p> <p>今後も、多くの人々が河川に関心を持ち、川を訪れるよう、河川に関する情報を様々な手段で発信する取り組みを進めていく。</p>
年度	アップ数(件)																		
H19	360																		
H20	400																		
H21	340																		
H22	340																		
H23	360																		
H24	320																		
H25	530																		
H26	561																		

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】情報公開・発信に関する職員の意識向上

「指標」研修等の内容・開催数

【広報に関する研修事例】

近畿地方整備局では平素行っている記者発表や記者会見における留意点を学ぶことを目的とした講習会を平成26年6月に開催した。講習会では広報担当者を対象として講師に産経新聞社の記者を招き、「記者発表」等について、参加した55名の職員に対し留意点を具体的に説明していただいた。

「記者発表・記者会見」 留意点

- ・なぜ伝えなくてはならないのか、誰に伝えたいのかが、明確な発表はわかりやすい
- ・イベント予告だけでなく、記事に必要な要素や写真も加えてイベントを実施した様子をまとめた資料の提供
- ・報道発表や報道対応に「正解」はない。何が正しいのかを考えることが大切
- ・記者は素人、専門用語も知らない
- ・包み隠さず、見通しを出す



新聞記事を実例に解説



55名の職員が受講

進捗状況

(平成26年度の取組)

平成26年度は、広報担当者を対象とした記者発表や記者会見の留意点についての研修会を開催した。

点検結果

適切に情報公開や発信が行えるよう、職員の意識向上を目的とした研修を実施した。
今後も職員の意識向上に取り組んでいく。

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】意見聴取手法の開発に向けた取り組み

「指標」住民、住民団体との交流内容・回数

淀川河川事務所管内の木津川では、平成26年度は26回の事業説明会、工事説明会等を実施した。また、木津川上流河川事務所管内では、平成26年度は18回の事業説明会、工事説明会、ワークショップ等を実施した。そのうち、ワークショップ形式での取組としては、高岩井堰魚道簡易改良意見交換会、魚道改良ワークショップの2回を実施した。

【ワークショップの実施事例】

【木津川上流河川事務所】

地域連携により魚道簡易改良を行う魚がのぼりやすい川づくりを順次進めており、平成26年度は名張川高岩井堰について、昨年度に引き続き堰管理組合、漁業協同組合、NPO等地元関係者との意見交換会を実施し、魚道構造、維持管理等について合意形成を行った。その結果、意見交換会メンバーを主体とした魚道改良ワークショップを円滑に進めることができた。



意見交換会開催状況



ワークショップ開催状況



【ワークショップの実施事例】

【琵琶湖河川事務所】

琵琶湖河川事務所管内では、平成27年3月22日に「ミズベリング瀬田川大津会議」を開催し、瀬田川の水辺に関心を持った市民・企業・行政が一体となって瀬田川の未来についてアイデアを出し合った



各テーブルでアイデアを検討

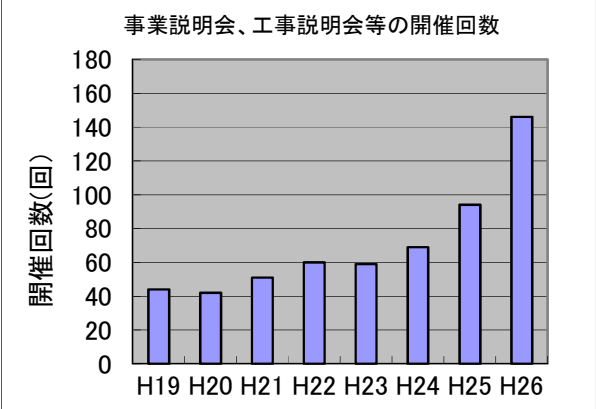


アイデアを共有

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】意見聴取手法の開発に向けた取り組み

「指標」住民、住民団体との交流内容・回数

進捗状況	点検結果																		
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>平成26年度は、流域全体で146回の事業説明会、工事説明会、ワークショップ等を実施した。</p>  <table border="1"> <caption>事業説明会、工事説明会等の開催回数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>開催回数(回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>45</td></tr> <tr><td>H20</td><td>45</td></tr> <tr><td>H21</td><td>50</td></tr> <tr><td>H22</td><td>60</td></tr> <tr><td>H23</td><td>60</td></tr> <tr><td>H24</td><td>70</td></tr> <tr><td>H25</td><td>95</td></tr> <tr><td>H26</td><td>146</td></tr> </tbody> </table> <p>各事務所では事業説明会、意見交換会等を実施した。平成26年度の代表事例を以下に示す。</p> <p>淀川河川事務所管内では、工事实施に向けた工事説明会等を実施した。 また、「ミズベリング大阪会議」を開催し、水辺に関心を持った市民・企業・行政が一体となって淀川の未来についてアイデアを出し合った。</p> <p>琵琶湖河川事務所管内では、「ミズベリング瀬田川大津会議」を開催し、瀬田川の水辺に関心を持った市民・企業・行政が一体となって瀬田川の未来についてアイデアを出し合った。 また、工事实施に向けた工事説明会等を実施した。</p> <p>猪名川河川事務所管内では、工事实施に向け地元工事説明会を実施した。</p> <p>木津川上流河川事務所管内では、工事实施に向けた工事説明会、遊水地事業の説明を行う遊水地連絡協議会及び高岩井堰魚道改良に向けた意見交換会等を実施した。</p> <p>淀川ダム統合管理事務所管内では、天ヶ瀬ダム放流に伴う低周波振動調査地元説明会、宇治の防災を考える会、園部雨量観測所敷地借地説明会、鎌倉雨量観測所伐木説明会を実施した。</p> <p>一庫ダムでは、「一庫ダム河川環境復元に向けての取り組みに関する意見交換会」を地元の漁業協同組合、自治会、利水者及び学識者等を招いて実施した。</p>	年度	開催回数(回)	H19	45	H20	45	H21	50	H22	60	H23	60	H24	70	H25	95	H26	146	<p>住民、住民団体との意思疎通の場は平成25年度は94回、平成26年度は146回と増加してきている。</p> <p>今後も、住民等の意見を聞きながら意見聴取の手法の開発に取り組む。</p>
年度	開催回数(回)																		
H19	45																		
H20	45																		
H21	50																		
H22	60																		
H23	60																		
H24	70																		
H25	95																		
H26	146																		

日常からの川と人のつながりの構築

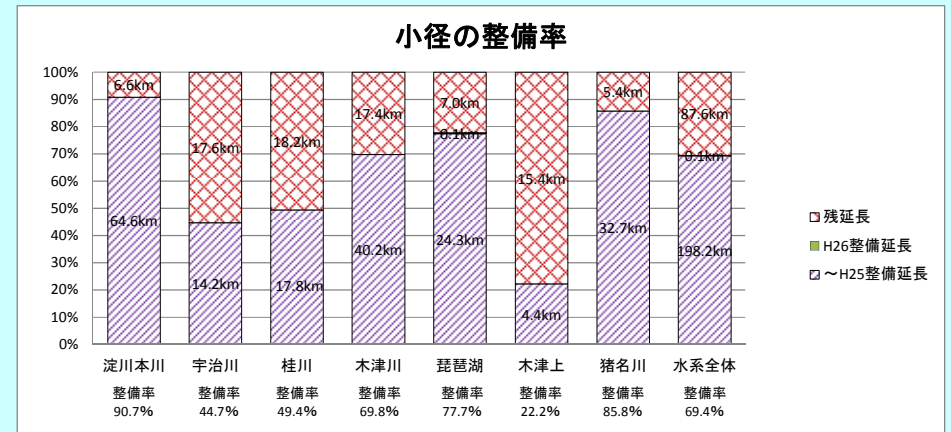
【観点】小径(散策路)、「歴史文化の薫る散歩道(仮称)」の整備状況

「指標」小径(散策路)の整備内容・延長(利用と指標が重複)

小径については、堤防強化における天端舗装や維持管理上の観点から管理用通路等を整備することで進捗を図ることとしており、平成26年度は木津川で堤防強化による天端舗装等は実施したが、既に小径となっていた箇所であることや、維持管理上も既存施設の老朽化によるメンテナンスを優先したことから、木津川では進捗無し。ただし、これまでの整備により木津川では44.6kmの小径整備を実施している。

【小径の全体計画について】

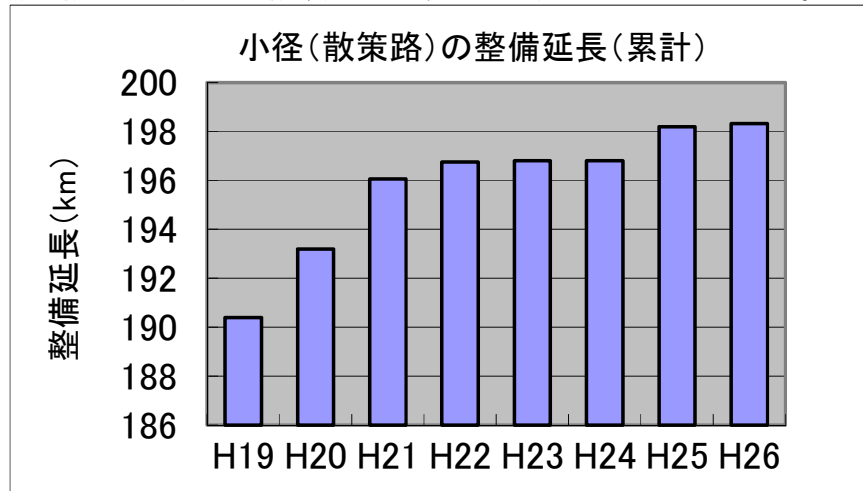
小径については、歩行者等が河川に沿って容易に移動でき、安全に水辺に近づける施設として、「河川区域内で歩車分離され、舗装済みで円滑に通行できるもの」と定義し、緊急用河川敷道路や河川管理用通路を小径として位置づけており、平成26年度までの水系全体の整備率は69%となり、残区間が87.6kmとなっている。



進捗状況

(平成26年度の取組)

平成26年度は小径(散策路)を0.11km整備した。全体計画285.9kmのうち、平成26年度末までに198.31km(整備率69%)が整備済であり、残区間は87.6kmとなった。



点検項目「憩い、安らげる河川の整備」の[指標]小径(散策路)の整備内容・延長と重複掲載

点検結果

今後も、各整備箇所の特性を考慮した整備内容を検討し、推進を図り、川とまち・地域間の水辺のネットワークの形成に努めるとともに、関係機関と広域的な水辺の散策路ネットワークについても調整を図り、利用者の視点に立った活用促進方策について検討していく。

日常からの川と人のつながりの構築

【観点】憩い、安らげる河川を目指した河川事業の実施状況

「指標」バリアフリー化の内容・実施箇所数(利用と指標が重複)

河川を安心して利用できる整備内容・箇所数(利用と指標が重複)

維持管理上の観点から管理用通路等を整備することで進捗を図ることとしており、維持管理上は既存施設の老朽化によるメンテナンスを優先したことから、平成26年度は木津川では進捗無し。

進捗状況	点検結果																																				
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>平成26年度はトイレは4箇所設置、2箇所撤去し、84箇所が存在している。スロープの更新はなかった。更新したトイレは、平成25年度出水による被害により撤去した場所に再設置した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="107 742 757 1204"> <p style="text-align: center;">トイレの設置数(累計)</p> <table border="1"> <caption>トイレの設置数(累計)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>設置数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>92</td></tr> <tr><td>H20</td><td>96</td></tr> <tr><td>H21</td><td>92</td></tr> <tr><td>H22</td><td>92</td></tr> <tr><td>H23</td><td>92</td></tr> <tr><td>H24</td><td>92</td></tr> <tr><td>H25</td><td>84</td></tr> <tr><td>H26</td><td>84</td></tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="817 742 1489 1204"> <p style="text-align: center;">スロープの設置数(累計)</p> <table border="1"> <caption>スロープの設置数(累計)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>設置数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>13</td></tr> <tr><td>H20</td><td>15</td></tr> <tr><td>H21</td><td>15</td></tr> <tr><td>H22</td><td>15</td></tr> <tr><td>H23</td><td>15</td></tr> <tr><td>H24</td><td>18</td></tr> <tr><td>H25</td><td>18</td></tr> <tr><td>H26</td><td>18</td></tr> </tbody> </table> </div> </div>	年度	設置数	H19	92	H20	96	H21	92	H22	92	H23	92	H24	92	H25	84	H26	84	年度	設置数	H19	13	H20	15	H21	15	H22	15	H23	15	H24	18	H25	18	H26	18	<p>河川内で子どもや高齢者でも安心して利用でき、多くの人が気軽に集うことができる場となるよう、トイレを92箇所、スロープを18箇所設置していたが、利用者からトイレについては「臭い、汚い」との意見が多いため、平成22年度以降は昭和56年度以降に設置されたスチール製トイレを簡易水洗式のFRP製トイレに更新している。また、平成25年9月出水等により、使用できなくなったトイレについては順次更新・修理していくこととしている。</p> <p>今後も安心して、気軽に利用できる場として整備を進めるとともに、施設整備にあたってはバリアフリー化を進める。</p>
年度	設置数																																				
H19	92																																				
H20	96																																				
H21	92																																				
H22	92																																				
H23	92																																				
H24	92																																				
H25	84																																				
H26	84																																				
年度	設置数																																				
H19	13																																				
H20	15																																				
H21	15																																				
H22	15																																				
H23	15																																				
H24	18																																				
H25	18																																				
H26	18																																				
<p>点検項目「憩い、安らげる河川の整備」の[指標]バリアフリー化の内容・実施箇所数と重複掲載</p>																																					

日常からの川と人のつながりの構築

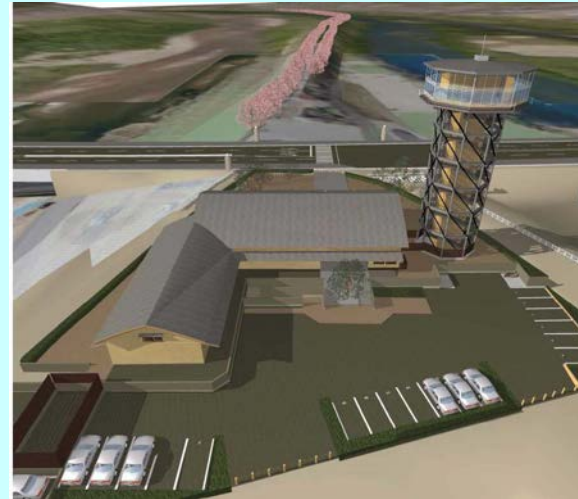
【観点】三川合流部の整備状況

「指標」三川合流部交流拠点の整備内容(利用と指標が重複)

淀川三川交流拠点施設の整備にあたっては、周囲の自然環境との調和や地域の歴史性に配慮したデザインを取り入れた地域間の交流の中核とするために、三川合流部拠点施設検討委員会を開催し、学識経験者や地域の関係者から助言・意見をいただいた。



淀川三川交流拠点の計画地



現時点の淀川三川交流拠点のイメージ図

進捗状況

(平成26年度の取組)

平成26年度は、淀川三川交流拠点施設の整備にあたっては、周囲の自然環境との調和や地域の歴史性に配慮したデザインを取り入れた地域間の交流の中核とするために、三川合流部拠点施設検討委員会を開催し、学識経験者や地域の関係者から助言・意見をいただいた。これらをもとに、平成28年度末拠点施設完成に向け実施設計を進めることとなり、これまで実施してきたイベント等の企画及び実証実験を踏まえ、三川合流部拠点施設完成後の市民団体等による利活用の方針について、平成27年度に三川合流部拠点施設検討委員会にはかる予定。

点検項目「まちづくり・地域づくりとの連携」の〔指標〕三川合流部の拠点の整備内容と重複掲載

点検結果

「淀川三川合流域地域づくり構想」の実現に向けて、交流活動や関係機関との調整を着実に実施している。

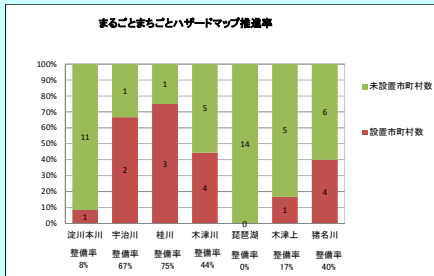
今後さらに「淀川三川合流域地域づくり推進協議会」にて自治体間や地域との連携を深めつつ、「淀川三川合流域地域づくり構想」の実現に向け、三川合流部の整備の具体化に向けて関係自治体・民間事業者等と連携した実証実験・意見交換会を実施し、検討を推進する。

洪水・災害時の人と川とのつながりの構築

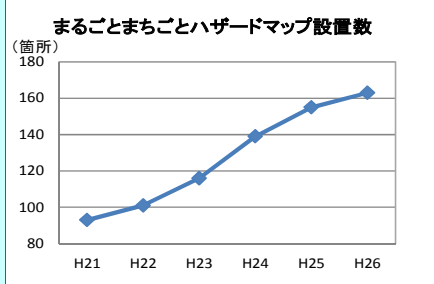
【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」まるごとまちごとハザードマップ、浸水実績及び想定表示看板設置内容・設置数(治水と指標が重複)

【まるごとまちごとハザードマップ整備状況】



※水害に強い地域づくり協議会等に参画している市町村数で集計



【まるごとまちごとハザードマップ推進事例】

【淀川河川事務所】

平成26年度は、木津川沿川の京田辺市で4箇所まるごとまちごとハザードマップを設置した。



京田辺市 中部住民センター設置事例

京田辺市(草内地区、三野地区)では、まるごとまちごとハザードマップやマイ防災マップを作成しており、マイ防災マップ作成に取り組んだ自治会の参加者へのアンケートを行った結果、参加者の多くから防災意識の向上や水害への備えに役立ったと回答があり、住民の防災意識向上効果があったと考えている。

■地区の防災意識はあがるといいますか				
地区	あがると思う	変わらないと思う	わからない	無回答
草内	64%	9%	18%	9%
三野	90%	0%	10%	0%

■参加して水害に対する備えに役立ちましたか				
地区	役立った	どちらでもない	役立たなかった	無回答
草内	91%	0%	0%	9%
三野	100%	0%	0%	0%

参加者へのアンケート結果

【まるごとまちごとハザードマップ設定事例(伊賀市)】

【木津川上流河川事務所】

木津川上流河川事務所の水位、雨量等の防災情報配信サービスをQRコード付きで紹介

国土交通省木津川上流河川事務所では、災害から身を守るため、木津川上流地域の河川に関する「水位」、「雨量」、「ダム」、「気象」に関する情報の防災情報配信サービスを行っています。

■木津川上流河川事務所
防災情報配信サービス(水位、雨量・気象情報等)

過去の浸水被害の浸水記録

← 過去の浸水被害の浸水記録

伊賀市の警報、避難情報等の防災地緊急メール配信サービスをQRコード付きで紹介

伊賀市では、昨今の災害を教訓とし、警報や避難勧告などの災害に関する情報を迅速に市民の皆さんにお伝えするために災害時緊急メール配信サービスを行っています。

■伊賀市
災害時緊急メール「あんしん・防災ねっと」
(気象警報・避難情報)

伊賀 浸水の深さ示す表示板新調

「ドーナツ」も隠せ、伊賀出身の俳人、松原英の雨にまつわる俳句も掲載した。

「一、二、四」を記した。携帯電話のカマフラ小田町別の五百四、読み込もど、河川の水十が浸水した五年、位や雨量などわかる、台風の時の被害や、河川事務所の防災情報は、災害で命を落とす区を示す地図も発行、配信サービスと、気象、すこなない、よう、表水があふれた写真と、情報や避難情報伝える行動につなげてい、職し、被害の深刻さ、ただれば、と、試しが伝わるよう工夫し、ができる、QRコード。

H26.3.29 中日新聞

洪水・災害時の人と川とのつながりの構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」まるごとまちごとハザードマップ、浸水実績及び想定表示看板設置内容・設置数(治水と指標が重複)

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度 of 取組)</p> <p>平成26年度は、大山崎町で4箇所、京田辺市で4箇所のまるごとまちごとハザードマップを設置した。平成26年度末時点の整備済箇所は以下のとおりである。</p> <p>浸水想定区域表示看板(25箇所) (大阪市、京都市等)</p> <p>まるごとまちごとハザードマップ(163箇所) (八幡市(4)、宇治市(70)、大山崎町(8)、長岡京市(6)、向日市(9)、久御山町(7)、摂津市(2)、城陽市(5)、京田辺市(4)、伊賀市(1)、尼崎市(9)、伊丹市(6)、池田市(5)、川西市(27))</p> <p>点検項目「洪水・災害時の人と川とのつながりの構築」の〔指標〕まるごとまちごとハザードマップ、浸水実績及び想定表示看板設置内容・設置数と重複掲載</p>	<p>万一の堤防決壊に備え、避難誘導と危機意識の醸成に資するため、まるごとまちごとハザードマップ及び浸水実績表示看板等の設置が進んでいる。</p> <p>今後も関係自治体と連携してさらにまるごとまちごとハザードマップ及び浸水実績表示看板等の設置を進めていく必要がある。</p>

危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」自治体、水防団、マスメディア等との情報共有化のための情報伝達体制の基盤整備内容・情報共有団体数(治水と指標が重複)

既存の情報基盤機器の老朽化等のため、その更新等を優先したことから、平成26年度は木津川では進捗が無かった。ただし、これまでの整備により木津川では8自治体に情報提供を実施している。

【情報伝達体制状況】

【水系全体】

淀川・琵琶湖・猪名川・木津川上流の4事務所では光ファイバー等による情報提供を50団体と行っている。また、主要な雨量・水位情報やライブ映像はインターネットによる提供も行っている。

有事の際、各自治体等への確実な情報伝達体制確立のため、光ファイバー等の接続による直接の情報伝達について、水害に強い地域づくり協議会等で呼びかけている。

【木津川上流河川事務所】

木津川上流河川事務所では、地域住民、自治体、水防団等に分かりやすい河川情報の伝達手段として、地元ケーブルテレビ局を介して、より多くの人にリアルタイムな情報を伝えるために、河川の動画像の配信を行っている。

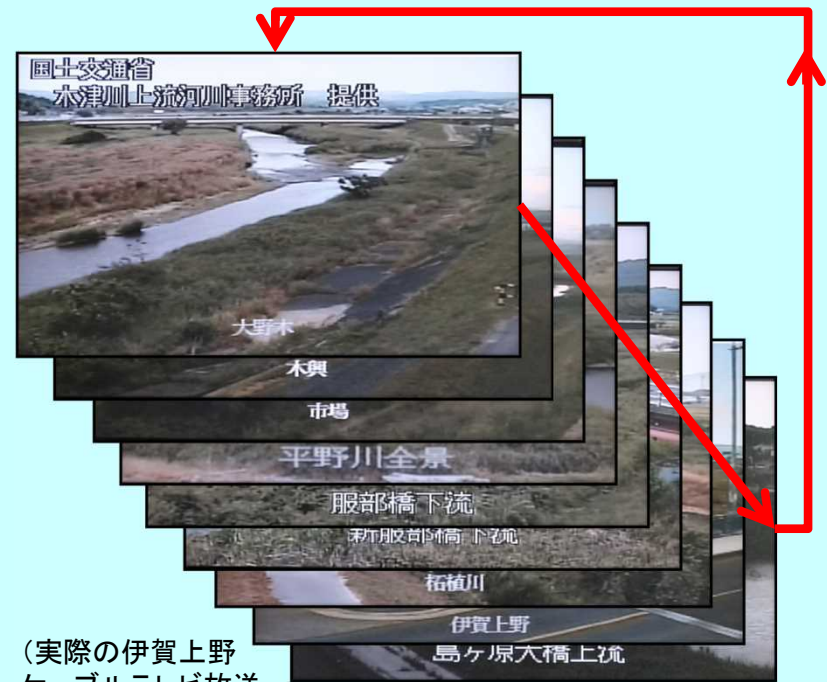
平成24年7月1日より伊賀上野ケーブルテレビ(株)のサービスエリア内に配信を行い、水防活動等においても役立てていただいている。



NHK情報提供画面(各河川水位データ表示)

- 笠置町
- 和束町
- 精華町
- 南山城村
- 伊賀市
- 名張市
- 津市
- 奈良市
- 天理市
- 生駒市
- 宇陀市
- 山添村
- 曽爾村
- 御杖村

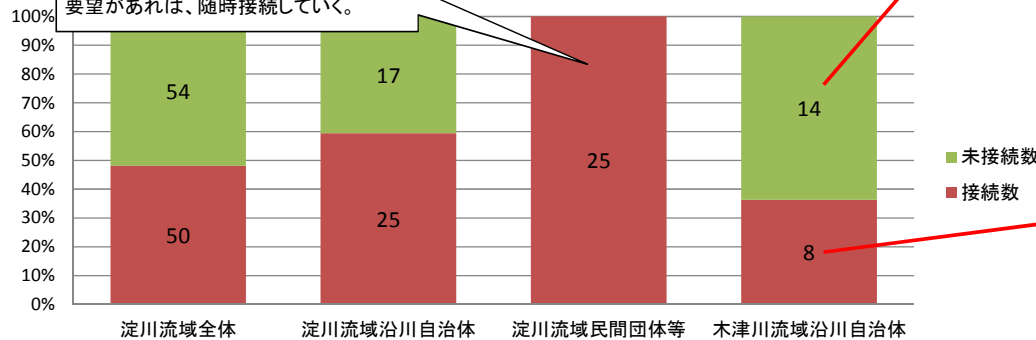
- 京都府
- 城陽市
- 八幡市
- 京田辺市
- 木津川市
- 久御山町
- 井手町
- 奈良県



(実際の伊賀上野ケーブルテレビ放送映像)⇒

接続要望のあった関係団体(ケーブルテレビ等)は接続済みであり、新たに接続要望があれば、随時接続していく。

沿川団体接続率



危機管理体制の構築

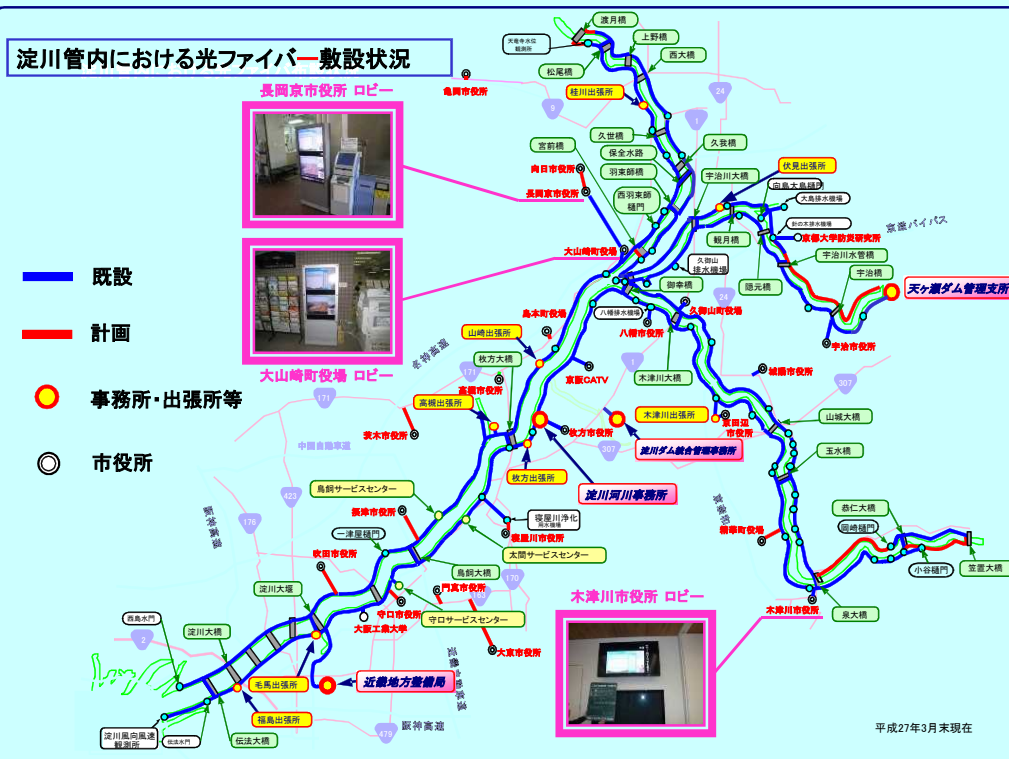
【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」自治体、水防団、マスメディア等との情報共有化のための情報伝達体制の基盤整備内容・情報共有団体数(治水と指標が重複)

【光ファイバーを利用した地域情報ネットワーク】

【淀川河川事務所】

淀川河川事務所と自治体等の関係機関との間に独自に光ファイバーを敷設し、河川情報、画像情報を提供している。
また、インターネットにおいても水位情報を提供し、自治体だけでなく、沿川住民の方々も活用できるサイトをホームページ上にも設置している。



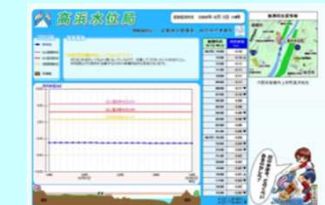
【防災担当者向け】

防災担当者が動画像を選択確認し、また、雨量、水位及び排水機場・樋門の内・外水位情報を把握することにより、自治体の水防活動に役立てていただく。



【一般住民向け】

自治体ごとに一般住民向けに情報提供する動画像地点や水位地点を予め設定しておき、自動スクロールで表示することにより、閲覧された一般住民の方々にも水防への備えをしていただく。



【地域情報ネットワークによる情報共有状況】

- | | |
|--|--|
| ①宇治市 防災担当課端末 24時間、市役所ロビー端末 8:00~17:00 | ⑥木津川市 防災担当課端末 24時間、市役所ロビー端末 8:30~17:30 |
| ②城陽市 防災担当課端末 24時間 | ⑦大山崎町 防災担当課端末 24時間、市役所ロビー端末 8:30~17:00 |
| ③長岡京市 防災担当課端末 24時間、市役所ロビー端末 8:30~17:15 | ⑧久御山町 防災担当課端末 24時間 |
| ④八幡市 防災担当課端末 24時間、市役所ロビー端末 8:30~17:00 | ⑨井手町 防災担当者端末 24時間 |
| ⑤京田辺市 防災担当課端末 24時間 | ⑩枚方市 防災担当者端末 24時間 |

淀川河川事務所ホームページ <http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/live/index.php>

危機管理体制の構築

【観点】破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況

「指標」自治体、水防団、マスメディア等との情報共有化のための情報伝達体制の基盤整備内容・情報共有団体数(治水と指標が重複)

進捗状況	点検結果																		
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>平成26年度は、新規に1団体(枚方市)へ情報提供を始めた。 平成26年度までの累計では、50団体と増加している。</p> <div data-bbox="320 488 743 818" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>情報提供団体数(累計)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>団体数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>34</td></tr> <tr><td>H20</td><td>43</td></tr> <tr><td>H21</td><td>44</td></tr> <tr><td>H22</td><td>45</td></tr> <tr><td>H23</td><td>47</td></tr> <tr><td>H24</td><td>48</td></tr> <tr><td>H25</td><td>49</td></tr> <tr><td>H26</td><td>50</td></tr> </tbody> </table> </div> <p>また、平常時から危機管理能力の向上を図るため、堤防の決壊を想定したシミュレーション訓練、総合防災演習及び陸閘の操作訓練を自治体や水防団と連携して実施した。</p> <p>自治体や水防団と水防連絡会を開催し、沿川の危険箇所や災害時の連絡体制等について情報交換を行った。</p> <p>点検項目「危機管理体制の構築」の[指標]自治体、水防団、マスメディア等との情報共有化のための情報伝達体制の基盤整備内容・情報共有団体数と重複掲載</p>	年度	団体数	H19	34	H20	43	H21	44	H22	45	H23	47	H24	48	H25	49	H26	50	<p>関係機関へ光ファイバー等を接続することにより、河川情報や画像情報を確実に提供でき、情報提供している団体数も増加している。 また、訓練や連絡会を通じて、関係機関との連携が図られている。</p> <p>今後も関係自治体等と連携してさらに避難体制の基盤整備の支援や情報共有の促進及び関係機関との連携に取り組んでいく。</p>
年度	団体数																		
H19	34																		
H20	43																		
H21	44																		
H22	45																		
H23	47																		
H24	48																		
H25	49																		
H26	50																		

洪水・災害時の人と川とのつながりの構築

【観点】関係機関との連携状況

「指標」協議会等の設置状況(治水と指標が重複)

【協議会の設置状況】

【淀川河川事務所】

住民が防災情報を適切に理解するための取り組み、住民の適切な避難行動の実現に向けた取り組み、河川管理者と自治体との連携強化の推進等の様々な活動を実施している。(平成16年に水害に強い地域づくり協議会設置)



○第1回行政WG会議 議題
・平成26年度活動方針



○第2回行政WG会議 議題
・基準水位の見直しについて
・防災行動計画(タイムライン)について
・マイ防災マップの取組について



○ブロック別意見交換 議題
・避難勧告等発令のタイミング変更について
・避難勧告等発令のリードタイムについて
・防災行動計画(タイムライン)の策定に向けた現状と課題について



○首長会議 議題
・今年度の活動報告
・近年の水災害の状況等について

7月15日、17日
第1回行政WG会議
●平成26年度の活動提案



20日~11月28日
ブロック別意見交換
京都府域 自治体毎
大阪府域 自治体毎
●避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン変更に伴う危険水位の設定や防災行動計画(タイムライン)の作成に向けて意見交換
①避難勧告等の発令のタイミングの変更について
②避難勧告等の発令のリードタイムについて
③避難勧告等の発令のタイミングの変更について



2月25日、26日
第2回行政WG会議
●危険水位等の見直し
●防災行動計画(タイムライン)(案)のとりまとめ内容報告
●マイ防災マップの取組について



3月20日、27日
首長会議

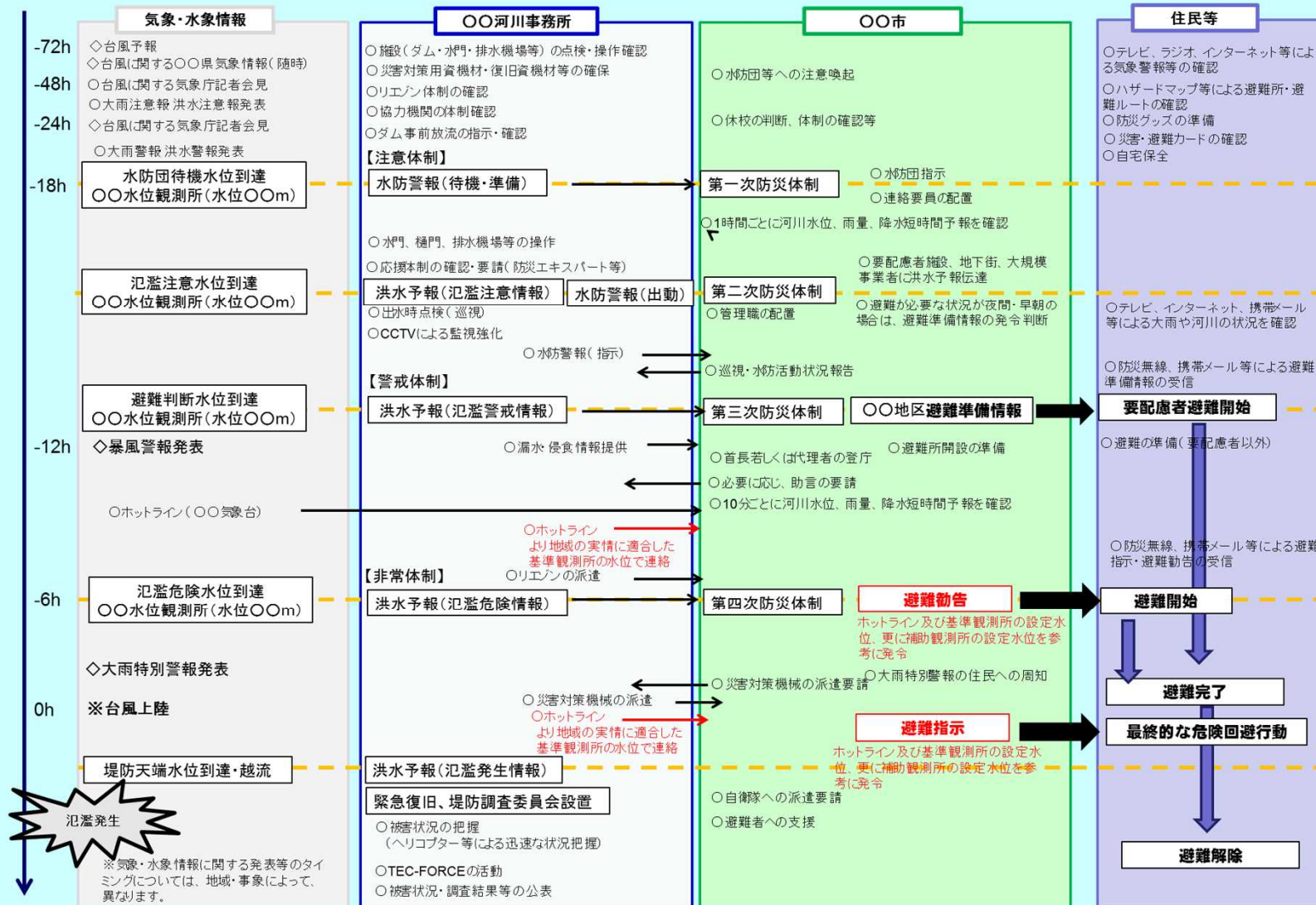
洪水・災害時の人と川とのつながりの構築

【観点】関係機関との連携状況

「指標」協議会等の設置状況(治水と指標が重複)

【タイムラインについて】

大規模水災害の発災前から各主体が迅速で的確な対応をとるために、いつ、だれが、どのように、何をするかをあらかじめ明確にしておくとともに、それぞれ他の主体がどのような対応をとるのかを把握しておくことが必要となることから、平常時から地方自治体や関係機関等が共通の時間軸(タイムライン)に沿った具体的な対応を協議し、防災行動計画を策定し、災害時にはそれを実践する。



避難のためのタイムラインの検討イメージ

洪水・災害時の人と川とのつながりの構築

【観点】関係機関との連携状況

「指標」協議会等の設置状況(治水と指標が重複)

【木津川上流河川事務所】

平成26年6月24日名張地区まちづくり推進協議会へ「防災に関する講演会」を実施した。

○出席者

- ・名張地区まちづくり推進協議会防災部会14名
- ・名張市役所1名
- ・木津川上流河川事務所5名 合計20名

災害時における避難の重要性や身近に出来る水防について説明し、その後の質疑応答では、「雨量と水位上昇の関連性」、「ダムの操作に関すること」、「避難勧告のタイミング」等多岐にわたる質問が数多く出され、風水害の基礎知識と日頃からの備え等について情報提供を行った。



名張地区まちづくり推進協議会

水防活動(すいぼうかつどう)の活用編(かつようへん)①

おうちでできる水防工法(すいぼうこうほう)①

堤防(ていぼう)での水防工法(すいぼうこうほう)は、水防団(すいぼうだん)が行うものですが、おうちでもゴミ袋(ぶくろ)や段(だん)ボールなど身近(みぢか)な物を使って、家の中に水が入るのを防(ふせ)ぐこともできます。おうちでできる水防工法(すいぼうこうほう)を家族(かぞ)みんなで覚(おぼ)えて、洪水(こうずい)からわが家を守ろう。

プランターを活用(かつよう)

花などを植えるプランターも活用(かつよう)できます。プランターをシートなどで包(つつ)みます。より効果的(こうかてき)に水の侵入(しんにゅう)を防(ふせ)ぐことができます。

木の板と土(ど)のうやポリタンクを活用(かつよう)

玄関(げんかん)などは、木の板(いた)を土(ど)のうやポリタンクで固定(こうてい)するだけでも、水の侵入(しんにゅう)を少なくできます。

家庭用に開発(かいはつ)された製品(せいひん)を活用(かつよう)

重(おも)い土(ど)のうは、一般(いっぱん)家庭(かてい)ではなかなか備(そな)えておくことができません。しかし、水を吸収(きゅうじゅう)するとふくらんで、土(ど)のうと同じ役割(やくわり)を果(は)たす便利な製品(せいひん)もあります。家庭用に開発(かいはつ)されたこれらの製品(せいひん)は、普段(ふだん)はコンパクトなサイズなので、万(ま)一(いち)に備(そな)えて物置(もの置き)などに収納(しゅうりゅう)しやすくなっています。

水防活動(すいぼうかつどう)の活用編(かつようへん)②

おうちでできる水防工法(すいぼうこうほう)②

ゴミ袋(ぶくろ)を活用(かつよう)

ゴミ袋(ぶくろ)を2~3重にし、水を入れます。そして家の出入口(でいりぐち)などに並べると、侵入(しんにゅう)する水の量(りょう)を減(へ)らすことができます。ただし、あまり入れすぎると破(やぶ)れるので気(き)をつけましょう。

ゴミ袋(ぶくろ)と段(だん)ボール箱(はこ)を活用(かつよう)

水を入れたゴミ袋(ぶくろ)を段(だん)ボール箱(はこ)に入れて、家の出入口(でいりぐち)などに置きます。ゴミ袋(ぶくろ)だけだと、すき間(すきま)から水が入ってきたり、水に流(なが)されやすくなりますが、段(だん)ボール箱(はこ)に入(い)れると流(なが)されにくくなります。代用(だいよう)として、新聞紙(しんぶん)を30~40cmの高さ(たかさ)に重ね(かさね)て2重(にじゅう)にひもがけ使う(つか)うこともあります。

身近に出来る水防資料

洪水・災害時の人と川とのつながりの構築

【観点】関係機関との連携状況

「指標」協議会等の設置状況(治水と指標が重複)

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・淀川河川事務所管内においては、平成16年に水害に強い地域づくり協議会を設置しており、平成26年度は、首長会議2回、ワーキンググループ4回、ブロック別の意見交換19回、地域住民・自治体職員の防災意識向上を目的とした講演会・研修会を8回実施し、風水害の基礎知識と日頃からの備え等について情報提供を行った。 ・琵琶湖河川事務所管内においては、平成16年に水害に強い地域づくり協議会を設置しており、平成26年度は、協議会を4回実施、担当者会議を3回実施し、風水害の基礎知識と日頃からの備え等について情報提供を行った。 ・猪名川河川事務所管内においては、昭和55年に猪名川流域総合治水対策協議会を設置しており、平成26年度は、流域の都市化に伴い治水の安全度が低下している猪名川流域において、土地の適正な利用計画等、総合的な治水対策のための諸施策を協議のうえ策定した。かつ、その施策を推進することにより水害を防止し、また軽減を図ることを目的とした、猪名川流域総合治水対策協議会・幹事会を1回実施し、風水害の基礎知識と日頃からの備え等について情報提供を行った。 ・木津川上流河川事務所管内においては、平成26年度は、引き続き協議会発足に向けて調整を行っており、名張市と連携しまちづくり推進協議会へ防災に対する講演を実施し、風水害の基礎知識と日頃からの備え等について情報提供を行った。 <p>点検項目「危機管理体制の構築」の[指標]水害に強い地域づくり協議会実施内容・開催回数と重複掲載</p>	<p>各事務所管内において、水害に強い地域づくり協議会の設立が進んでおり関係機関との連携が進められている。</p> <p>今後も、定期的に各協議会を開催することにより、関係自治体との連携を強化していく。</p> <p>なお、協議会が未設置の地域では、早期設置を図る。</p>

上下流の連携の構築

【観点】水源地域ビジョンの推進状況

「指標」水源地域ビジョン策定とその後の活動内容・回数(利用と指標が重複)

水源地域ビジョンは以下のとおり策定済み

天ヶ瀬ダム平成17年、高山ダム平成15年、青蓮寺ダム・比奈地ダム平成16年、室生ダム平成15年、布目ダム平成14年、日吉ダム平成14年、一庫ダム平成15年

【水源地域ビジョンの事例】

【布目ダム水源地域ビジョン(水資源機構布目ダム管理所)】



≪目的≫

布目ダムでは「水源地域ビジョン策定要綱」(平成13年4月12日 国土交通省)に沿って、地元住民や関係機関等が共同して「布目ダム水源地域ビジョン」を検討し、平成14年3月に策定した。

「布目ダム水源地域ビジョン」では、布目ダムを生かした水源地域の自立的、持続的な活性化のための行動計画として、基本方針や目標像を定め、ソフト対策に重点を置き目標像実現のための具体的な方策を定めている。

≪キャッチフレーズ≫

布目川がつなぐ 森と人のふれあい空間

≪取り組み≫

地域内ネットワークの強化
 布目ダムの魅力を高める既存施設等の有効利用
 湖面の積極的な活用
 水源地域や布目ダムに対する関心・親しみ等の向上
 水源林等自然環境の保全と育成
 地域活動を担う人材の発掘、育成

布目ダム水源地域ビジョン

<http://www.watar.go.jp/kansai/kizugawa/nunome/vision/index.htm>

【木津川ダム総合管理所におけるダム施設見学会等の状況】

【木津川ダム総合管理所】

木津川ダム群では、平成26年度は、貯水池周辺清掃を8回、約7百人が参加、施設見学会に約4千人が参加された。



比奈知ダム 施設見学会
 300名参加
 (平成26年8月3日)



高山ダム 地元村祭りでのダム施設見学会
 100名参加
 (平成26年11月23日)



布目ダム 施設見学会
 500名参加
 (平成26年7月27日)



室生ダム カヌー体験教室
 170名参加
 (平成26年7月19日～27日のうち6日間)

上下流の連携の構築

【観点】水源地域ビジョンの推進状況

「指標」水源地ビジョン策定とその後の活動内容・回数(利用と指標が重複)

【ダム水源地の市町村・ダム管理者等による意見交換会】

【木津川ダム総合管理所】

木津川ダム総合管理所では、水源地域ビジョンの実行連絡会を開催し、関係自治体、機関等から平成25年度の実施報告並びに、平成26年度の計画報告が行われた。

・高山ダム水源地域ビジョン実行連絡会
平成26年12月 5日

・青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン実行連絡会
平成26年11月13日

・室生ダム水源地域ビジョン実行連絡会
平成26年 9月10日

・布目ダム水源地域ビジョン実行連絡会
平成26年 7月18日、平成27年2月26日



青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン実行連絡会

水源地域ビジョン実行連絡会の構成機関

高山ダム	青蓮寺・比奈知ダム	室生ダム	布目ダム
機 関 名	機 関 名	機 関 名	機 関 名
南山城村	名張市	宇陀市	布目ダム周辺地域開発協会
奈良市	曾爾村	室生地域事務所	山添村
山添村	御杖村	大宇陀地域事務所	奈良市
伊賀市	津市	菟田野地域事務所	奈良県サイクリング協会
名張市	中知山住民代表	平成榛原子供のもり公園	布目川漁業協同組合
木津川漁業協同組合	青蓮寺住民代表	宇陀市商工会室生支所	
波多野漁業協同組合	上比奈知住民代表	宇陀市観光協会	
月ヶ瀬漁業協同組合	長瀬住民代表	宇陀市森林組合	
五月川漁業協同組合	曾爾村総代会	室生村森林組合	
木津川を美しくする会	御杖村区長会	宇陀川漁業協同組合	
NPO法人 ENJIN	太郎生地区自治会連合会	室生漁業協同組合	
関西電力株式会社 奈良支店	伊賀森林組合	室生連合自治会	
	名張川漁業協同組合	榛原連合自治会	
	青蓮寺川香落漁業協同組合	大宇陀連合自治会	
	長瀬太郎生川漁業協同組合	菟田野連合自治会	
	名張商工会議所		
	宇陀商工会		
	曾爾村森林組合		
	曾爾村漁業協同組合		
	御杖村森林組合		
	御杖村漁業協同組合		
	特定非営利活動法人 地域と自然		
	中勢森林組合		
オブザーバー			
京都府	三重県	奈良県	奈良県
三重県	津地域防災総合事務所	国土交通省近畿地方整備局	国土交通省近畿地方整備局
奈良県	伊賀地域防災総合事務所		
国土交通省近畿地方整備局	奈良県		
	国土交通省近畿地方整備局		
ダム管理者			
水資源機構	水資源機構	水資源機構	水資源機構

上下流の連携の構築

【観点】水源地域ビジョンの推進状況

「指標」水源地ビジョン策定とその後の活動内容・回数(利用と指標が重複)

進捗状況	点検結果																																				
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>平成26年度は、水源地域ビジョンの取り組みとして、貯水池周辺清掃に約1,300人(20回開催)、施設見学会に約4万4千人が参加している。(水源地域ビジョン策定年:天ヶ瀬ダム平成17年、高山ダム平成15年、青蓮寺ダム・比奈地ダム平成16年、室生ダム平成15年、布目ダム平成14年、日吉ダム平成14年、一庫ダム平成15年)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="286 523 869 1018"> <p>貯水池周辺清掃</p> <table border="1"> <caption>貯水池周辺清掃の参加人数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加人数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>約780</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>約820</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>約780</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>約950</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>約1280</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="907 523 1518 1018"> <p>施設見学</p> <table border="1"> <caption>施設見学の参加人数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加人数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>約68,000</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>約52,000</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>約48,000</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>約42,000</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>約45,000</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="607 1042 1176 1536"> <p>ホタル鑑賞会</p> <table border="1"> <caption>ホタル鑑賞会の参加人数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加人数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>約50</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>約50</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>約150</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>約5</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> <p>※ホタル観賞の場として定着したため、H26年度から鑑賞会は実施していない。</p>	年度	参加人数(人)	H22	約780	H23	約820	H24	約780	H25	約950	H26	約1280	年度	参加人数(人)	H22	約68,000	H23	約52,000	H24	約48,000	H25	約42,000	H26	約45,000	年度	参加人数(人)	H22	約50	H23	約50	H24	約150	H25	約5	H26	0	<p>水源地域ビジョンを策定し連絡会等により各施策が実施され、各行事には多数の参加者が訪れている。</p> <p>また、ダム周辺では施設整備が進められ利用者の利便性が向上するとともに、湖面利用の促進に取り組んでいる。</p> <p>今後も関係機関と連携しダム施設見学会、ダム湖周辺におけるマラソン大会、水源地域の植林活動、間伐材の利用促進、水質保全対策の実施や不法投棄対策の実施など水源地域ビジョンの取り組みを継続的に推進する。</p> <p>また、ダム周辺施設の整備や湖面利用促進策を進めていく。</p>
年度	参加人数(人)																																				
H22	約780																																				
H23	約820																																				
H24	約780																																				
H25	約950																																				
H26	約1280																																				
年度	参加人数(人)																																				
H22	約68,000																																				
H23	約52,000																																				
H24	約48,000																																				
H25	約42,000																																				
H26	約45,000																																				
年度	参加人数(人)																																				
H22	約50																																				
H23	約50																																				
H24	約150																																				
H25	約5																																				
H26	0																																				

上下流の連携の構築

【観点】水源地域ビジョンの推進状況

「指標」水源地ビジョン策定とその後の活動内容・回数(利用と指標が重複)

進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>また、平成26年度の個別の取組としては、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天ヶ瀬ダムでは、今年度竣工50周年を記念して、宇治市、宇治市観光協会、宇治観光ボランティアガイドクラブ、宇治市歴史資料館と協業しながら記念式典、記念ダムツアー、写真コンテスト、写真展の開催を行った。 ・天ヶ瀬ダムでは、併せて毎年行っている宇治観光ボランティアガイドクラブとともに、天ヶ瀬ダムを広く国民に知っていただき、あわせて、天ヶ瀬ダムを観光資源として活用していただくことを目的とした協働事業における施設見学を実施した。 ・青蓮寺ダムにおいて、ダム湖に流入した流木の有効活用として薪化し、関係機関、地元地区への配布を実施した。(11月～3月) ・青蓮寺ダムにおいては、「名張クーン大作戦」(6月)、「青蓮寺川河川清掃」(6月)、「青蓮寺湖クーンハイキング」(2月)に参加し環境保全活動実績として水源地域ビジョン実行連絡会へ報告した。また、一般の方に青蓮寺ダムのことを知っていただくために、夏休み期間中、施設見学会を13回実施した。 ・木津川ダム群において、水源地域ビジョンの実行連絡会を5回開催し、関係自治体、機関等が平成25年度の実施報告並びに平成26年度の計画報告を行った。 また、各ダムにおいて施設見学会を実施した。 ・日吉ダムにおいて、水源地域ビジョン連絡会の連携活動の取り組みとして、集中取組期間(7月～11月)を設けて関係機関によるダム周辺地域の清掃活動を実施した。 ・一庫ダムにおいて、水源地域ビジョン推進協議会による廃棄物の有効活用やゴミの減量への意識を高める事を目的に、ダム湖に流入した流木を利用した「美しい猪名川 流木ペインティング大会」を実施した。(7月) ・比奈知ダムでは、平成19年度～平成25年度までホテル鑑賞会を実施した結果、一般の方々にホテル鑑賞の場所として定着したことにより、当初の目的を達成したため、H26年度から鑑賞会をとりやめた。 <p>点検項目「水源地域の活性化」の[指標]水源地ビジョン策定とその後の活動内容・回数と重複掲載</p>	

上下流の連携の構築

【観点】上下流交流を促進するための活動状況

「指標」交流(水源地ネットワーク)実施内容・回数

【ダム水源地の市町村・ダム管理者等による意見交換会】

【淀川ダム統合管理事務所】

淀川水系ダム水源地ネットワーク(構成メンバーは淀川上流域の大津市、栗東市、甲賀市、長浜市、京都市、宇治市、宇治田原町、南山城村、南丹市、奈良市、山添村、宇陀市)は、淀川水系のダム水源地が広域的に連携して、ダムや水源地への理解を深め、関心を高揚させるための情報発信並びに水源地の地域振興等を図ることを目的としている。

平成26年度は、7月4日に日吉ダム管理所、11月13日に青蓮寺ダム管理所及び比奈知ダム管理所と実施状況、今後の取組について意見交換会を実施した。



進捗状況	点検結果
<p>(平成26年度の取組)</p> <p>淀川水系ダム水源地ネットワークは、淀川水系のダム水源地が広域的に連携して、ダムや水源地への理解を深め、関心を高揚させるための情報発信並びに水源地の地域振興等を図ることを目的としている。</p> <p>平成26年度は、7月4日に日吉ダム管理所、11月13日に青蓮寺ダム管理所及び比奈知ダム管理所と実施状況、今後の取組について意見交換会を実施し、上下流交流が促進された。</p> <p>天ヶ瀬ダム湖上流端にあたる大石地区においては、大石地区自治会、大石小学校(PTA)、NPO瀬田川リバプレ隊、琵琶湖博物館うおの会、大津市大石支所等と連携して、自然地区観察会を5月に、水生生物調査を7月、台風18号後の大石地区ヤナギ林の現地調査会を10月に、植生調査体験会を1月に実施し、上下流交流が促進された。</p> <p>日吉ダムの役割を知っていただくことを目的に、京都水族館において、いのちと環境をテーマに、水と水にすむいきものたちと親しみながら、楽しい体験ができる「かたちさがし」(10月1日(木)～11月21日(金)で開催)として、日吉ダムの流木を利用し、さまざまな色や大きさの古木の中から好きな木片を一人一つ選んでもらい、それを自分だけの「かたち」へと磨いていくワークショップが実施された。</p> <p>集客の多い「京都水族館」で日吉ダムの流木を題材にイベントを行うことで、日吉ダムの役割を知ってもらうよい機会となり、上下流交流が促進された。</p>	<p>継続的に各種交流イベントが開催されており、上下流交流の促進が期待される。</p> <p>今後も、淀川水系ダム水源地ネットワークの活動を推進し、さらなる上下流交流の促進を目指す。</p>